



伊豆市

議会だより

No.23

発行：伊豆市議会 <http://www.city.izu.shizuoka.jp> 編集：議会報編集特別委員会
〒410-3292 静岡県伊豆市市山550 TEL 0558-85-2606 **2010.2.1**発行



あんらくじ
安楽寺(伊豆市土肥)

山門入口にある巨木は、県指定天然記念物に指定されている樹齢千年を超える「クス」です。豆州八十八箇所の一所である寺の境内では、土肥温泉発祥の湯とされる「まぶ湯」を見学することができます。

目次 CONTENTS

- 議長新年のあいさつ 2
- 市長 行政報告 3
- 1 2 月定例会の概要・委員会審査 4
- 一般質問 6
- 行政視察報告 12
- 議員新年の抱負 14
- 3 月定例会の予定・意見書・決議 16

平成22年 新春のごあいさつ



伊豆市議会
議長 飯田宣夫

市民皆様方には、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、皆様方の議会への温かいご支援とご協力に厚くお礼申し上げる次第です。

《新たな社会システムを

模索する年》

昨年は、永年続いた自民党政権から民主党へと政権が移り、日本の歴史において大きな変革の年となりました。

サブプライムローン問題に端を発した金融危機は、世界経済がグローバルに一つであ

ることを証明しました。

中国を始めとする新興国の経済は急テンポに回復していますが、先進国の回復は捗々しくありません。特に日本はデフレの状況下において、この経済を上向かせるには、適切かつ多様な政策と時間を要すると思われれます。

今後、日本はグローバル世界の中でどのような資本主義社会の構築をどのように図っていくのか、未来に向けた重要な判断を迫られる年になるものと思われれます。

《プラス思考で

地域に構想力を駆使する》

伊豆市を元気にするためには、地域に対する構想力が必要だと思えます。厳しい財政下では経費の節減に努めるのは当たり前ですが、ひとつには広域行政をより進める必要性があります。

近隣市町とお互いに持ち合わせた「もの」「知恵」を共有していくことです。

人口減少が続く伊豆市において、「田舎で人口が少ない」とか、「産業が衰退しているからダメだ」と言う概念は捨て、これらをプラスに変える発想が重要です。

人口が少なく、小さな地域だからこそ出来ることがあると思えます。

市長を中心に、職員・議員・市民の皆さんが自分たちの「伊豆市」を如何にしたいのかの思いを巡らせることが大切です。伊豆市に潜在している「宝物」は沢山あると思えます。何とか皆の手で活かすよう頑張ります。

結びに、昨年は「伊豆市議会」を傍聴される市民の皆様が今までになく増えました。また、議会の様子をインターネットの録画配信でご覧になつている市民の皆様もかなり増えていると聞いています。議会の運営状況を知って頂き、より身近なものとして頂くと共に、少しでも多くの行政情報を共有して頂きたいと考えています。

この点におきましても皆様方のご意見を伺って、さらに良い方向になりますように、努力していきたいと思えます。本年も市民に信頼される伊豆市議会を目指して行きます。議会に対して皆様方の一層のご理解とご協力をお願い申し上げますと共に、皆様方の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます、新春の挨拶と致します。



出初め式での一斉放水

12月定例会

市長 行政報告

1 人口減少危機への対応

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、伊豆市の将来人口は、26年後の2035年では23,500人となっております。人口減少の傾向は伊豆市だけではなく、旧田方郡の伊豆の国市、函南町でも同じような状況です。この人口減少のペースを減速する、更に可能なれば人口減少に歯止めをかけるために、伊豆市のあらゆる資源と努力を傾注してまいります。

平成22年度に、第1次伊豆市総合計画の後期基本計画を作成することとなっておりますが、全ての施策が人口減少との戦いに収斂しゅうれんされるよう、策定作業を進めてまいります。以下、当面の行政課題について報告申し上げます。

2 水道事業

22年4月の水道料金統一のための料金改定に向け、12会場にて説明会を行いました。今後の大きな事業

としては、まず八木沢・小下田地区の簡易水道の市への移管に着手します。

また、下水道については、事業を抜本的に見直す時期に来ていると思われまます。下水道・農業集落排水・合併浄化槽といった「施設」によって市民の負担が異なる状況を是正し、生活排水を浄化して川の清流化を図る「機能」に着目する必要があります。私は、下水道・農業集落排水・合併浄化槽を市の事業として統合し、下水道料金として同額の負担をいただく制度を検討したいと考えまます。従来の制度との整合性を図るため、少なくとも数年を要すると思ひますが、伊豆市にとつては最も適切な施策ではないか、と考えまます。

3 環境衛生

(1) 伊豆の国市との共同によるごみ焼却場整備の取り組み状況ですが、施設候補地選定作業について、10月4日、二市の準備会が開催され、現時点での状況報告がありました。今後は、準備会として積極的に地区への説明等を行い、理解を得たいとのことでございます。

(2) 22年4月のごみ処理の有料化に向け、12会場にて説明会を行いました。また、緊急雇用対策でシルバー人材及び臨時職員6名を雇い入れ、不法投棄の回収を行つています。さらに、監視体制にあつては各地区ボランティア監視員4名による監視及び監視カメラの設置を進めていくところです。

4 市有施設の利用

(1) 天城温泉会館について、2度目の公募を行い、応募者がありました。残念ながら不選定となりました。今後あらためて、地元の方々、経費をかけずに有効な使い方がないか、なるべく早く話し合いを始めたと思ひまます。

(2) 旧中伊豆荘と旧ふじみ荘については、解体撤去のうえ、売却する準備を進めまます。平成22年度中には売却したいと考えています。

5 路線バス

路線バスの維持は、天城温泉会館と並んで5千万円を越える補助金を支出してきました。ただし、その効果について、必ずしも十分なものであると判断し得ません。

学校再編に伴うバス路線の見直しを含め、抜本的な交通体系の構築に着手したいと考えています。

6 道路整備

報道されているところでは、伊豆半島全市町にとつて最優先である東駿河湾環状道路及び天城北道路の来年度予算が、ほぼ要求通り計上されているようです。東駿河湾は、2012年の新東名開通に合わせて完成するよう、引き続き要望を上げていきたいと思ひまます。また、同タイミングで伊豆中央道及び修善寺道路の無料化を実現するよう、今後とも全力で働きかけてまいります。

以上、目下の行政運営について報告申し上げます。

市では、11月末に2度目の「定住体験ツアー」を行いました。今回も「伊豆市に住んでみたい」というニーズが非常に高いことを再確認することとなりました。

この私達の故郷を、ますます元気にするために、今後とも効率的で将来の夢を拓く行政に心がけてまいります。

一般会計総額が 152億8,080万円になりました

平成21年
12月定例会

平成21年12月定例会が、12月3日から18日までの16日間の会期で開かれました。

補正予算7件、条例の制定7件、条例の一部改正3件、規約の変更1件、意見書3件、決議1件を原案のとおり可決しました。また、報告2件がありました。

21年度 補正予算

- ・ 一般会計(第7回)
1億2,021万4千円増額、
総額152億8,080万円。
- ・ 国民健康保険特別会計(第3回)
2億909万3千円増額、
総額44億1,975万円。
- ・ 介護保険特別会計(第2回)
1億6,748万円増額、
総額28億6,867万円。
- ・ 簡易水道事業特別会計(第1回)
182万3千円増額、
総額7,482万3千円。
- ・ 下水道事業特別会計(第2回)
1億4,119万6千円減額、
総額17億1,285万3千円。
- ・ 農業集落排水事業特別会計
(第2回)
920万円増額、
総額2億2,065万5千円。
- ・ 天城温泉会館事業特別会計
(第1回)
110万円増額、
総額5,928万円。

条例の制定

- ・ 伊豆市財産区管理会の管理委員の報酬及び費用弁償に関する条例
- ・ 伊豆市財産区特別会計条例
- ・ 伊豆市(持越・市山・門野原・吉奈・月ヶ瀬)財産区財政調整基金条例

条例等の一部改正

- ・ 伊豆市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正
- ・ 伊豆市消防団員等公務災害補償条例の一部改正
- ・ 伊豆市立学校設置条例の一部改正

その他

- ・ 静岡地方税滞納整理機構規約の変更
- ・ 専決処分の報告 2件

議案のピックアップ

○一般会計補正予算(第7回)

職員の給与費改定に伴う人件費の減額補正と、8月11日発生の駿河湾沖地震による補助災害復旧工事(農地災害12件、農業用施設災害5件ほか)などを追加する内容が主です。

○伊豆市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正

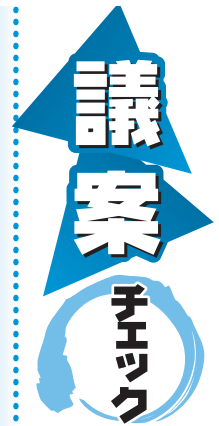
1日「8時間」の勤務時間を「7時間45分」とするものが主ですが、始業(8時30分)と終業(17時15分)の時間の変更はありません。

22年4月1日より。

○伊豆市立学校設置条例の一部改正

22年3月に土肥小学校と土肥南小学校が閉校することになりました。

4月から新たに土肥小学校が開校することになります。



委員会の議案審査で

次のような質疑がありました

総務教育委員会

◆一般会計補正予算（第7回）

問 市有林整備委託料250万円の実施面積と場所はどこか。

答 中伊豆地区沢口にて、10ヘクタールの整備になります。

問 体育施設案内予約システム導入委託料の内容と稼働開始は。

答 インターネットで予約できるものを導入予定ですが、指定管理者制度の入った施設もあり、稼働までには少し時間が必要です。

◆財産区管理会の管理委員の報酬及び費用弁償に関する条例の制定

問 財産区の活動とは何か。

答 山林の管理と処分が主なものです。

問 現金等に支出制限等はあるか。

答 財産管理のために支出する場合と、一般会計への繰出し等の支出制限があります。

福祉環境委員会

◆一般会計補正予算（第7回）

問 新し尿処理施設用地選定は、どのようにする予定か。

答 地域と方式はセットなので、複数を選択肢として挙げ、選定委員会を設置し、議論していただく予定です。

問 施設備品として購入する空気清浄機はどのようなものか。

答 加湿とウイルス殺菌機能が付いたものを、インフルエンザ対策として各保育園・幼稚園に設置します。

◆国民健康保険特別会計補正予算（第3回）

問 医療費削減や予防医療のための健康福祉部との連携は。

答 定期健診を健康増進課で行っていますが、今後は、市民課に保健師を配置し、国保に関する積

極的な事業展開を考えています。

◆介護保険特別会計補正予算（第2回）

問 事務備品としてパソコンを購入する理由は。

答 現在も専用のパソコンを使用していますが、県への報告は新しいメール回線により、安全性や信頼性を高めるように国から指導があつたためです。

経済建設委員会

◆一般会計補正予算（第7回）

問 急傾斜地崩壊対策事業の工事監理はどこか。

答 県営事業なので、工事監理や完成後の管理は県ですが、パトロールは県と市が合同で行います。

問 食肉処理加工場の規模はどのくらいの予定か。

答 処理してパックにするだけの小規模な施設となります。

◆簡易水道事業特別会計補正予算（第1回）

問 天城湯ヶ島地区の飲料供給施設にメーター器を設置とのことだが、他の地区はどうなっているか。

答 他の地区は設置が済んでいますが。料金改定に伴い、新しく設置するもので、約80件を予定しています。

◆下水道事業特別会計補正予算（第2回）

問 土肥浄化センター改築等の計画は。

答 平成20年度から始まり、25年度まで順次改築する予定です。施設の耐用年数を50年、ポンプ等を15年と考えています。

◆天城温泉会館事業特別会計補正予算（第1回）

問 施設は今後、どのようにしていくのか、現時点での考え方は。

答 物流を伴う製造業の企業誘致は無理なので、この土地に合った特産物製造や、観光による活性化は考えていますが、改めて、地元の方の皆さんの考えを確認させていただき、抜本的転用策を考えていきたいと思ひます。

市政を問う

～ 一般質問 ～

12月定例会での一般質問は、12月7日、8日の2日間、16名の議員が41件について行いました。質問と答弁を要約してお知らせします。(質問順)

質問

学校再編成後の土地(施設)活用について

(内田 勝行議員)

いよいよ、土肥南小学校を皮切りに、現実の問題として浮上してきます。地区住民は元より市民も高い関心をもって動向を注視していくことは、間違いありません。

今後、行政の責任として市民の利益にかなう活用方法を見出さなければなりません。これからどのようなプロセスを踏んで進めていくのか伺います。

市長 答

準備委員会の検討案を精査してから進めます

再編に伴う施設の跡地活用方法については、学校再編成準備委員会の地域サポート会での検討項目の一つとして取り上げています。

この中で、地域の皆様の希望を伺い、それを準備委員会全体会へ報告し、取りまとめています。地域サポート部会は、代表区長に地域代表としての委員をお願いし、地域の意見集約などに連携を図っています。

行政として具体的な活用方法を研究しているかとのご質問には、腹案がないわけではありませんが、地域の皆様の希望を伺ってからと考えています。

質問

地域活性化について

(飯田 正志議員)

森林の多い伊豆市において、森林を活用した活性化対策をすべきだと思います。

地域活性化のキーワードのバカ者、若者、よそ者の利用を図り、伊豆の資源を使って、起業を望む人に対しての情報の発信と受け入れ対策をどのように考えているのか、お聞かせ願いたい。

市長 答

森林整備に、より複合的な使い方を研究する

昨年4月に関係者と担当職員が山梨県鳴沢村の「フォレストアドベンチャー富士」を視察した報告を受けています。

内容は魅力的ですが、施設運用費が2千万円以上かかることを考慮すると、行政としては、フォレストアドベンチャーをどこかに運用してもらい、その事業者や森林管理者への支援を検討しています。

また、フォレストアドベンチャー以外にも、ツリー、クライミング、間伐体験、森林を活用できるレジャー、体験プログラマー等、使い方の研究を進めたいと考えています。

*フォレストアドベンチャーとは、専用のハーネス(命綱)を着用して、樹から樹へ空中を移動していく森林冒険施設です。

質問
萬城の滝の岩崩落防止策について

(塩谷 尚司議員)

市の指定文化財である萬城の滝（裏見の滝）は、十年前に岩の一部が崩落して以来、遊歩道が閉鎖されています。

全国的にも貴重な、滝を裏から見ることができ、名瀑の復活を願っていますが、対策を考えているのか伺います。



→萬城の滝

長弁 市答
平成22年度事業実施に向け、県と協議していく

全国的に数少ない裏見の滝を復元することは、伊豆市の観光資源整備及び、貴重な文化財を守る観点から、大変重要なことと捉えています。

現在、平成22年度事業実施に向け、県の観光施設整備事業に、事業実施協議補助申請をしており、砂防指定地域にかかわる県との協議や、岩崩落防止工法について、岩盤の隙間を固定していくポンド工法を採用すべく、検討しているところです。

質問
駅周辺整備は人口増や活性化に繋がりますか

(稲葉 紀男議員)

既に1億円以上をかけて修善寺駅の移転・建て替えを中心とした計画が進んでいます。今後18億円（一戸当たり5年間、毎月二千二百円）の税金を使う事業です。

事業仕分けにより補助金が削られると、市民の負担は益々大きくなります。費用とその効果を考え、駅南北通路や駐車場等、必要最低限にしては行かれますか。

長弁 市答
駅周辺整備だけでは人口増には繋がらない

平成19年度に総括された構想策定のコンセプトで、伊豆の玄関口にふさわしい「訪れやすく住みやすい、誇りある修善寺」を大目標とし、その下に位置づけられた具体的目標として、市民からの提案事業を精査し、歩道設置や舗装の高質化等の整備、新町公園の再整備、駅北線の拡幅等、約18億円を予定しました。

なお、道路整備も鉄道整備も、人と物を運ぶ手段ですので、これだけでは人口増には繋がるとは考えてはけません。

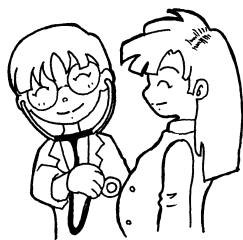
これをベースとしたまちづくりの構想が必要です。

質問
伊豆市における産婦人科医師確保の支援について

(梅原 泰嗣議員)

昨年度、伊豆市におきまして221名の新生児が誕生されました。しかし、市内に産婦人科がなく、他市等に受診し、出産せざるを得ません。

ぜひ、市内で出産できる産院をとということですが、医師の確保ができれば、開設できる病院を対象に、行政で「子育て支援」の一環として、医師募集経費等について支援ができるでしょうか、お伺いします。



長弁 市答
産婦人科医師募集の支援について

産婦人科医師募集の経費の支援については、これまで市で検討したことはありません。他の医療機関との影響や、当市の財政状況を考えると、簡単とは言いませんが、実際に先行している市・町の状況を確認しながら、研究させていただきます。

質問

鹿の解体処理施設の
計画進行状況について

(森島 吉文議員)

建設候補地、工事工程、年間処理頭数の予測、収支計画の予測、稼動日数予測などありましたら伺います。また、施設完成後の管理運営体制についても伺います。

捕獲頭数一頭当たり5%が一流部位肉ですが、あとの肉をペット用缶詰、ドッグフード、肥料等々、いかに有効利用するかが成功の鍵と考えますが、いかがでしょうか。

長弁
市答候補地は、下船原の
天城中学校下を選定

食肉加工センター建設候補地は、下船原の天城中学校下を選定し、地元の役員さんとは話を進めています。

平成22年10月には着工し、23年3月には稼働できるよう、事務を進めています。

施設の運営は臨時職員で対応し、開設3年後には年間150日稼働を予定し、約800頭の処理加工を行う予定です。なお、事業収入は、1680万円を見込んでいます。

また、二流部位、皮、角等の利用方法については、現在検討中です。

質問

学童保育利用料、
軽減の検討状況

(木村 建一議員)

9月議会で学童保育利用料について、

① 夏休みなど学校の長期休みに利用したいとき、日割り計算に変更

② 二人以上学童保育を利用したい家庭は、二人目から軽減

③ 母子、父子家庭の軽減 を提案しました。教育長は、前向きに検討するとの答弁でしたが、検討状況をお尋ねします。

長弁
教育答一部については軽減すべく
検討しています

① 夏休み中のケースのみ日割り計算を適用するのは、現在の料金体系を根本的に見直すことになるので、現時点では見送ります。

② 一つの家庭で2人以上が利用している場合は、月額利用料金7千円を、2人目から5千5百円とする方向で検討しています。

③ 母子・父子家庭の利用料金軽減については、他の援助措置等も行われていることから、現時点では軽減対策は考慮していません。

質問

高齢者でも利用できる
ファミリーサポート

(室野 英子議員)

高齢者だけの世帯が、全体の四分の一を占めます。

病気の時に病院に連れて行ってほしい。買い物をして来てほしい。困った時に手軽に利用できる制度が必要です。

市民同士の助け合いを促進する制度として、ファミリーサポートセンターは、どこまで進んでいるか質問します。

長弁
市答住民参加型の新たな地域福
祉サービスを検討中

高齢者の在宅支援につきましては、今のファミリーサポートセンターの観点ではなく、機能をどこに置くかという観点で協議し、社会福祉協議会において手助けをする、住民参加型の新たな地域福祉サービス事業を構築することとなりました。

今後は、利用内容やボランティア募集などの検討を行い、平成22年度中には事業開始ができるように取り組み中です。



質問
**順天堂大学静岡病院の
 移転について**
 (二須 重治議員)

伊豆半島中南部医療に当病院がいかに重要かは、言を待ちません。そんな中、病院の移転のウワサがあります。
 住民の不安解消のために、どのような情報をお持ちか伺います。

**長弁
 市答**
**移転についての具体的な
 情報はありません**

順天堂大学静岡病院が移転するという情報は、どこからも得ていません。
 ただし、伊豆の国市が現病院に隣接する静雲荘の跡地を取得して、拡張計画のある順天堂大学静岡病院へ無償貸与をしたらどうかと考へ、関係する市町からも負担をお願いしたいという説明は受けています。
 伊豆半島での順天堂大学静岡病院の重要性は認識していますので、伊豆市の市長として同病院の存続については、折に触れ、強く申し上げ続けていきたいと思っています。

質問
**安心して生活できる病院の
 存在に関して**
 (大川 孝議員)

12月4日、伊豆日日新聞の記事に、伊豆の国市の一般質問で、順天堂大学静岡病院の件が取り上げられ、病院の存続維持のために、支援体制が表明されました。

市長は、移転する情報は聞いていないと答弁されましたが、伊豆市として、また、伊豆南の自治体と連携して、支援に準ずる方法など、考えていますか。

**長弁
 市答**
**病院と連携し、市民の生
 命・健康を支援します**

順天堂大学静岡病院は、三次救急として市民の生命に直結していると捉え、その位置づけにおいて、支援策を考えていきたいと思っています。

また、他病院との連携についても、田方医師会役員との協議会、あるいは市内医療機関とも連携し、健康診断や予防接種が円滑に実施できるよう、話し合いの場をもうけています。
 そして、私自身および健康福祉部長も、しばしば各病院と調整、意見交換をさせていただいています。

質問
新しい公共交通体系の構築を
 (杉山 誠議員)

バス路線維持のための財政負担が大きくなっているが、路線が廃止されると、高齢者や障がい者等、社会的弱者の移動手段を奪うことになり、住民生活に大きな支障をきたす。また、学校再編の進展に伴い、児童・生徒の通学手段の確保は、喫緊の課題です。

新たな公共交通体系の構築について、所見を求めます。

**長弁
 市答**
**利便性の高い交通システム
 を目指します**

市では今後、国道・主要県道などを走る路線バスは、現在のまま運行体系を取りつつ、それに繋がる支線については、路線バスを廃止するなど、公共交通体系を抜本的に見直し、対応しようと考えています。

高齢者や障がい者の方々、あるいは学生・生徒、そのような必要とする地域に対しては、コミュニティバスやダイヤモンドバスなどの方法によって、全体として公共交通体系を見直し、結果、今より利便性の高い交通システムを構築しようとして検討をしているところです。

*ダイヤモンドバスとは、基本路線外でも乗客の呼び出しに応じて一定地区内を運行するバスのことです。

質問 八木沢大川君沢橋の老朽化対策について

(松本 覺議員)

大川に架かる橋のうち、国道に次ぎ交通量は多く、丸山球場・八木沢港、大企業マンションにつながる重要な橋です。

しかし、竣工昭和33年で老朽化は著しく、コンクリートは剥離し、鉄筋はむき出しで腐食しています。2トンの重量制限となつていますが、長い間放置されていることは、管理責任を問われます。架け替え等の改善計画を伺います。

市長 補修工事として対応します

君沢橋の老朽化につきましては、議員ご指摘のとおり、危険な状況であることは認識しております。早急に対応しなければならぬということ、緊急経済対策交付金事業として、架け替えではなく、補修工事として実施することとしました。

発注については、すでに11月13日、指名競争入札により執行し、平成22年2月25日を補修工事の完成予定としています。



↑君沢橋

質問 政権交代「何を言ってきたか」

(森 良雄議員)

8月29日、加殿にあった民主党公認候補の渡辺周氏の選挙事務所に行きました。

訪問の目的は何ですか。どんなことを述べてきましたか。

何を言いに行ったのか、言ってきたのでしょうか。

市長 有料道路の無料化について 意見具申

首長である私は、特定の政党を応援することはありません。

8月29日午後2時頃、私はご指摘のとおり渡辺周候補の事務所に向いました。

「渡辺先生と細野先生が応援された川勝知事は、伊豆スカイラインの無料化を推進、優先されています。これでは、伊豆市民希望の伊豆中央道・修善寺道路の無料化が大幅に遅れてしまうと懸念しました。

仮に、現場を見ないで政策を進めるようなことがあれば、それは大変に不安に思います。」

と、申し上げました。

質問 広域ごみ処理施設整備事業の進捗状況

(西島 信也議員)

平成18年に広域ごみ処理施設建設候補地として、堀切区が決定されましたが、区民の同意が得られず、平成20年5月に白紙撤回となりました。

その後、どのようになっているか、次の2点を質問します。

一、建設候補地の選定状況は、現在どのようになっているか。

二、焼却炉の燃焼方式等は、どのように検討しているか。

市長 建設候補地住民と話を進めています

伊豆の国市に一つの候補地があり、この地域の住民の方々にご理解をいただく作業を進めています。

焼却方式は、平成19年3月に策定した『施設整備基本構想』に沿って、「焼却施設」と、そこから出た灰を溶かす「灰溶融施設」または「ガス化溶融施設」を暫定策としています。管理については、民間活用を含め、事業計画を検討しています。

質問
伊豆市は政権交代にどの様
に対応するのか

(関 邦夫議員)

人口減少は成熟社会において当然なこと、それに抵抗することは、費用の無駄遣いにならないか。事業仕分けで、交付税や補助金はどの様になると思いますか。

民主党の政策は、市町村の財政に大きく影響すると思いますが、これらに頼ってきた伊豆市は、どの様に対応するつもりですか。

**長弁 民主党の地方支援に
市答 期待しています**

先進国の中でも日本の出生率は目立って低いのですが、成熟社会であっても、北欧やフランスの出生は伸びています。北欧や中央ヨーロッパと比べても、伊豆市の立地条件は良いと思っていますので、今後も人口増加策を進めていきたいと思っています。

事業仕分けについては、今後の影響は、はっきりしていませんが、民主党は地方支援を基本方針で示しているので、期待しているところですよ。

質問
八木沢と小下田
簡易水道事業について

(鈴木 初司議員)

市長は、定例会施政方針で、「八木沢と小下田地区の水問題を解決するため、灌漑配水を多目化することで安全な飲み水を確保します」と述べられています。

次の4点について質問します。

- ① 事業時期は何年から。期間は。
- ② 建設改良費は、どの程度必要。
- ③ 建設改良資金の捻出方法は。
- ④ 地域と受益者負担金は、どのように考えられていますか。

**長弁 平成29年度までに布設替え
市答 の工事を完了予定**

事業時期は、平成22年度において変更の認可をとり、平成23年度の移管とともに平成25年度までに水源、配水地、ろ過機の工事を行い、平成26年度において漏水調査、そして、平成27年度から29年度までに漏水調査に基づいた管の布設替え工事を予定します。

工事費は、平成29年度までに委託費を入れて6億7千万円を予定しています。
建設改良費の捻出方法は、国庫補助金、市債、市単独費、及び一部は受益者にもお願いしたいと考えています。

県23市議会議員報酬比較(抜粋)

(平成21年7月1日現在調査)

順位	市名	議員定数	議員報酬額(月額)	政務調査費※ (1人当りの年間支給額)
1	静岡市	53人	663,000円	3,000,000円
4	沼津市	34人	493,000円	480,000円
8	三島市	24人	410,000円	180,000円
18	伊豆の国市	22人	305,000円	無
20	下田市	14人	290,000円	無
22	伊豆市	20人	260,000円	無
23	菊川市	17人	255,000円	一会派 100,000円

※政務調査費とは、地方議会の議員が政策調査・研究等の活動のために支給される費用

行政視察の報告

総務教育委員会

(平成21年10月22・23日)

●栃木県芳賀町「学校再編の経緯
再編後の空き校舎等の再利用」

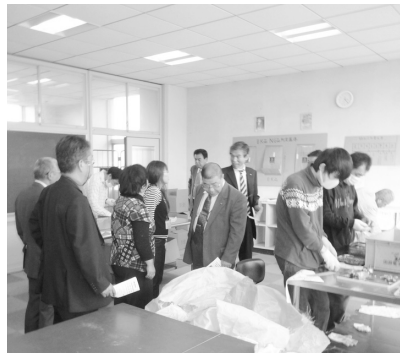
芳賀町は、都市計画法の調整区域が設置されたことにより、住宅建設が容易にできなくなり、隣の宇都宮市に住居を構えて芳賀町に通勤する人が多くなる状況になりました。

子供が少なくなる過程で複式学級の心配が生じ、平成4年3月に「小学校通学区域審議会条例」を制定し、翌年12月に住民や議会も参加した審議会を発足。5年目の平成10年4月に最初の統合がなされ、平成17年4月までに9校あった小学校は3校になりました。児童の通学においては、原則として3キロ以内は徒歩、そのほかは13台のスクールバスが稼働しています。町所有車両以外は委託契約であり、その委託金額は4千万円とのことでした。

事業終結までに十分時間をかけ、また住民が納得した上での再編

だったとの説明等に、当市でも見習う必要があると感想を持ちました。施設の再利用は、シルバー人材

センター事務所と作業所、知的障がい者のライフサポートセンターとして利用されている所を視察しました。ほかにも、郷土資料館、生涯学習センターとしての利用や、保育園を建設計画中のところ、J A、デイサービスへの貸与や、民間企業にグラウンドを貸与する計画も含め、利用がされていました。



↑知的障がい者の自立支援作業所

●茨城県牛久市「人事評価制度」

牛久市は、東京から50キロに位置し、ベッドタウンとなっていています。人口は30年間で倍の伸びを示し、8万人に成長していますが、特筆すべき産業はありません。財政力指数は0.97と県下8番目に良いのですが、これは、人口増加

による個人市民税が大きく支えており、市の力は人の数の力なのかと思わせます。

そんな牛久市ですが、職員の資質を向上させ、市民生活のレベルアップにつなげるため、人事評価制度を導入し、平成18年から勤務評定に基づく、勤勉手当に反映させています。

公務員社会でも競い合いは当然で、「民間で成果を上げていることは導入すべき」という意見が多かった反面、人が人を評価する危険性や連帯感の欠如等が心配されました。

福祉環境委員会

(平成21年10月15・16日)

●東京都町田市「ごみゼロ市民会議」のできた状況、ごみ減量化

町田市では、平成18年3月に就任した石坂市長が「ごみになるものを作らない、燃やさない、埋め立てない」ことを呼びかけ、議論したことを実証実験で確かめる試みとして「ごみゼロ市民会議委員」を募集したところ、予定をはるかに超える応募があり、全員を委員とし、さらに地区代表委員を加えて委員会が発足。委員会にはアド

バイザーとして学識経験者5名と、若手市職員19名をサポーターとして加えたとのことでした。

実証実験としては、パッカー車の収集回数数を減らすため、生ごみ処理機の無償貸与や、持ち込まれた資源ごみに対してのポイント・景品交換。また、不用になった物を譲ることができるとのコーナーの設置などが行われ、結果は、6項目の提言が示された報告書としてまとめられています。

「ごみゼロ市民会議」後には、市民グループが中心となり、全国初の「レジ袋廃止」も実施されており、会議の運営や提言を、すべて市民に任せたことが大きな成果をあげた理由の一つとされています。

●千葉県白井市

「バイオマスタウン構想」

白井市は、平成8年に環境都市宣言、平成10年には全国の自治体で初のISO14001の認証を取得していますが、バイオマスタウン構想については、財政的に施設建設は難しく、民間施設を活用とのことでした。

家庭生ごみ処理機の普及は5%



↑バイオマスガス化発電施設

※組織活動、製品及びサービスの環境負荷の低減といった環境パフォーマンスの改善を実施する仕組みが継続的に運用されるシステムを構築するために要求される規格

程度にとどまっております、一部自治会と調整をとって、分別収集を計画しているとのことでしたが、ごみ減量化に関する講座の開催や、自治会の生活環境指導員による分別などの見回りや、100あるリサイクル団体によるイベントが毎月行われるなど、市民の協力を得ることにより、ごみが減ってきているとのことでした。

その後、バイオマスガス化発電をはじめ、広範囲の一般廃棄物・産業廃棄物の受入れ処理、リサイクルを行う民間施設を視察し、資料だけでは分らない多くのことを学ぶことができました。

経済建設委員会

(平成21年10月20・21日)

●山梨県富士河口湖町

「ジビエ（シカ）食肉加工施設」

有害鳥獣捕獲や管理捕獲を実施している中、町民からの要望により、平成20年度、国の交付金により事業費3千万円で建設された約90㎡の施設は、猟友会主体の管理組合に委託され、21年4月より管理運営が始まりました。

鹿肉を有効活用し、新たな特産品として観光産業に結び付けたという目的は、伊豆市と同じです。

施設運営は、年間稼働日数が50〜60日、1日当たりの処理頭数が2頭以上4頭まで、年間処理頭数は130〜150頭に計画されており、処理加工された肉は、町内の旅館やレストランで利用します。

しかし、山梨県のガイドラインは厳しいため、食肉として利用できる肉は少なく、廃棄される肉の有効利用が大きな課題であると感じました。



↑ジビエ（シカ）食肉加工施設

●山梨県山梨市「市町村設置型合併処理浄化槽の設置状況」

山梨市では、合併処理浄化槽の処理能力が向上し、国の補助制度も確立したことを受け、平成12年度に「生活排水処理基本計画」が策定されました。

基本方針としては、人口が密集し地理的に集合処理が適していると判断される地域には公共下水道を整備し、人口が分散し、地理的に戸別処理のほうが適していると判断される地域には合併処理浄化槽を整備していくものです。

合併処理浄化槽は、市が発注し各戸に設置。維持管理も市が行います。平成13年度から15年間で1208戸を目標に実施しています。

まさに今、伊豆市が抱えている課題と状況を共有するものです。

今後、下水道事業を見直す上の課題として、戸別合併処理だけでなく、数戸の合併処理なども取り入れるなど、管理をいかにするのか。また、設置費用や分担金の負担、使用料金の算定方法、公共下水道との公平性など、早急に課題を検討し、事業の実施に向かって進めるに値するものかと考えます。

●長野県長野市

「いびづな・お山の発電所」

この施設は、木質を100%使用し、チップ材を燃焼させ、その蒸気でタービンを回すことにより発電させています。

稼働から5年、稼働率は95%で、電力の安定供給はできていますが、最近と同類施設が多くなり、燃料確保が厳しく、また、チップ等の高騰もあり、原料不足も続いているとのこと。

木質バイオマス燃料による発電は、化石燃料発電に比べ、二酸化炭素の発生量を削減できる、最も効果的な手段ですが、現状を知ると、今後の見直しも決して楽観できるものではないと感じました。

議員 新年の抱負

皆様へのメッセージ

鈴木初司

早いもので一年がたちました。市民の皆様とともに、よりよい地域づくりに一生懸命これからも取り組んで参ります。

また、子育てしやすく、くらしやすい静岡一のまちを実現させるための4つのマニフェスト「イキイキ・スクスク・ワイワイ・ガッチリ」に一本背負いで頑張ります。

梅原泰嗣

昨年は、1年生議員として議会・委員会と貴重な経験をさせていただき、議員としての責任の重さと、同時に自らの姿勢も覚えて来しました。

本年は、これを踏み台とし、市民の皆様の期待に応えるべき議員活動を目指し、日々を大切にしたいと抱いています。

稲葉紀男

民主党政権の下、伊豆市に於いても今後の市政を方向付ける重要な年になります。

市民の声や良い意見が反映出来る明るく透明性の高い伊豆市を目指します。また、「総務教育委員、監査委員、行財政改革特別委員」として自己研鑽し、皆様のお役にたつ様全力を尽くします。

森島吉文

去年、伊豆市でソフトボールのシニア大会が開かれた。国内外を問わず38チームが参加した。プレー中皆、思う様に体が動かない。滑ったり転んだり、知らぬ間に足腰が退化しているのです。

今年は運動に励み、飲食にも気を付け、万全の体調で議会活動に臨みたいと思います。

松本 覺

昨年は、ゴミの有料化、上下水道料金の値上げを伴う一元化、5億数千万円の特別交付金の使途、学校再編成の第一弾土肥が目白押し的一年でした。

議員として、身を削られるような苦汁の選択を迫られました。市民の市政の思いを篤く新年を迎えました。

西島 信也

明日ありと思ふ心の仇桜（あだざくら）夜半（よわ）に風の吹かぬものかわ
親 鸞

この和歌は、浄土真宗の開祖 親鸞の作。あすがあると思っていると、桜が夜中の嵐に散ってしまふ。

私も一日一日を大切にしたいと思ひます。

杉山 誠

地域に協力、団結は社会建設の基盤です。

市民と行政との信頼関係を強め、協働の住みよいまちづくりを目指します。

今年も徹して現場を歩き、多くの人の声を聞くなかで、我が使命を果たしていきたいと思ひます。

内田 勝行

昨年六月、市長は「人口減少危機宣言」を出しました。急激な人口減少が行政運営に与える影響は大きく、深刻な問題に発展します。

これ以上の過疎化、少子化を加速させてはなりません。今後、若者の定住化に向けた施策を推進する努力を傾注していきます。



関 邦夫

地方の時代に、まだ特色を出せる段階ではありません。

世界的同時不況の中政権交代が行われましたが、生活は大きく変わることが無いと思います。

人口減少が進みますが、今ここに住む人々の生活が少しでも良くなるように、知恵を出したいと思っています。

杉山 莞央

本年は市内小学校再編の初年を迎え、未来を託する子供のために何が最善か？多くの人の大きな知恵で、最良の学校生活を送れるよう、全力を出し合ひましょう。また、伊豆鹿ブランドも、いよいよスタートします。住みたい伊豆市のために努力します。

大川 孝

ダーウインの進化論によれば、生物は変化の過程を経て進化してきたとされます。しかし、進化は良くなることばかりとは限りません。社会の変化もそれに似ています。

変化する社会と世界。より良い未来を築くために、議会の使命は何か、その責任を痛感します。

森 良雄

人口減少は加速し、観光客の増加も見えず、伊豆市の将来を決める年となる。

コンクリートから人へと大きな変革が始まりました。

伊豆市の未来は、住むなら伊豆市だ！子育てするなら伊豆市だ！と言えるような、住みよいまちづくりです。

古見 梅子

生まれてきてよかった。地域が一つの家族のように。

に、住みよい所であるように、今年も「明るい社会づくり運動」の輪を広げ、地域の皆で「遊休農地の解消」に汗を出し、楽しく取り組んでいこうと思います。

男女協働参画だから、不可能なことはないと思っています。

塩谷 尚司

伊豆市を取り巻く社会情勢は大変厳しいものがある。問題事項に真剣に対峙し、私の垂訓である「信と義」をもって、伊豆市の活性化に努力する。

室野 英子

何かと不安の多い昨今ですが、子どもは明るく高齢者は穏やかに暮らせる伊豆市を願っております。

前々から要望中の高齢者が緊急に支援が必要な時、電話で依頼すると手助けが受けられる制度が始まります。今年も皆様

の声を市政に届けるよう努めて参ります。

飯田 正志

人口減少と景気後退の中、伊豆市の活性化を図るために、あらゆる方向から検討し、あらゆる可能性を模索し、前向きな姿勢で十年後、二十年後の伊豆市が、今よりも暮らしやすくなるように一杯行動していこうと思っております。

鍵山 堅一

世界的な経済不況の続く中、昨年十月、自民党から民主党に政権が交代されたが、未だ先が見えない中で経済は不安定であるが、市民の安心、安全で住みよい伊豆市にするために、皆さんと共に知恵を出し合い、力を合わせ頑張りましょう。

三須 重治

昨年は政権交代という歴史的な変革が起こりました。それは取りも直さず多くの国民が「政治の力で今日の厳しい現状を何とかしてくれ」という強い思いの表れだと思えます。

国には国の、地方には地方の責任があります。一地方議員として現実を直視し、皆様の求める政治を目指して頑張ります。

木村 建一

市民のみなさんとの『キャッチボール』に、更に力をそそぐ決意です。今年も「みなさんの声を議会に届ける」ことを信条に、活動していきます。また、他の議員と協力し、市民から「身近になった」といわれるように議会改革にも取り組みます。

意見書

12月定例会で意見書を採択し
関係機関に提出しました

- ・食品表示制度の抜本改正についての意見書
- ・最低保障年金制度の創設を求める意見書
- ・子どもたちの生命を守るため、ヒブワクチン及び肺炎球菌ワクチンへの公費助成、定期接種化を求める意見書

ごみの減量化・資源化に関する決議を採択し
市長に提出しました

決議

1. 市民が主体となって、ごみの減量化・資源化を積極的に推進する仮称「ごみゼロ市民会議」を立ち上げること
2. 生ごみ及び布類を燃やさず資源化すること
3. 地域の環境グループとの連携強化と支援を行うこと
4. 有識者を講師に招き、講演会や研修会の開催を通じて、市民意識の向上に努めること

議会傍聴・視聴について

本会議はどなたでも傍聴することができ、当日、天城湯ケ島支所2階へお越しください。なお、団体の場合は事前に議会事務局までご連絡をお願いします。

また、本会議の中継（録画）を市のホームページにて視聴できますので、ぜひご覧ください。

（議会事務局 0558-852606）

3月定例会の予定

場 所	天城湯ケ島支所	議 場
時 間	午前9時30分～	
2月23日（火）	市長施政方針演説	議案上程
3月3日（水）	議案質疑	
10日（水）	一般質問	
12日（金）	一般質問	
16日（火）	委員長報告・ 質疑・討論・採決	

※変更となる場合がありますので
ご承知ください。

編集後記

本年は、学校再編成の初年度です。土肥地区を皮切りに、来年は中伊豆地区が計画されています。市民は大いなる関心をもって行方を見守っています。

議会の果たす役割は大変重く、市民の利益に適う最良の判断を下さなければなりません。

今後も、議会情報紙として、分かりやすく、親しみやすい内容づくりに務めていきます。

委員長 内田 勝行

議会報編集委員6名です。
1年間よろしくお願いします。

